

令和 2 年 6 月 12 日現在

機関番号：13801

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K02363

研究課題名(和文) 古代庭園と仮名文学の形成に関する文化思想史的研究

研究課題名(英文) A Study of Cultural and Historical Thoughts on the Formation of Japanese Ancient Gardens and "Kana" Literature

研究代表者

袴田 光康 (HAKAMADA, MITSUYASU)

静岡大学・人文社会科学部・教授

研究者番号：90552729

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：9世紀から11世紀までの間の庭園に関連する和歌の用例を調査し、初期の「歌合」においては、日本の「名所」を再現した「州浜」が用いられていたことを明らかにした。更に「州浜」と同様に寝殿造庭園も日本の「名所」を再現することによって詠歌を促す機能を持つ点に大きな特徴があることについても明らかにした。この研究成果は、「古代庭園と和歌」(<http://heianteien.sakura.ne.jp/>)のHPにおいて広く一般に公開した。また、「古代庭園文化の受容と翻案 寝殿造庭園と「名所」の発生」(今野喜和人編『翻訳とアダプテーションの倫理』、春風社、2019年)等の論文においても発表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

「国風文化」は、文学・美術・建築などの諸文化の総合体と考える必要があるが、その相互的な関係性を具体的に究明する研究は決して多くない。本研究では、9世紀末から11世紀にかけて行われた「歌合」という文学的空間に焦点を当て、美術品である「州浜」と建造物である寝殿造庭園がともに日本の「名所」を再現するという特徴を持ち、「名所」の再現によって詠歌を促す機能を果たしていたことを明らかにした。この点において学術的な意義を持つと共に、その成果を「古代庭園と和歌」(<http://heianteien.sakura.ne.jp/>)のHPにおいて公開し、広く社会に還元するものである。

研究成果の概要(英文)：First we investigated examples of "kana"poetry related to a garden until the 11th century from the 9th century and we made it clear that the "suhama" where Japanese "meisyo" was reproduced was used in the early stage of "utaawase". The second we understand that the function that Japanese "kana"poem is suggested by reproducing Japanese "meisyo" is the character in the classic aristocratic mansion style garden like a "suhama". These study results were exhibited to the public widely in HP of "ancient garden and poetry" (<http://heianteien.sakura.ne.jp/>). And we also presented in papers such as "Acceptance and adaptation of ancient garden culture: "Sindenzukuri" garden and the occurrence of "famous places" (Kiwato Konno, "Ethics of translation and adaptation", Shunpusha, 2019).

研究分野：人文学

キーワード：和歌 庭園 寝殿造 歌合 州浜 名所 国風文化 東アジア

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

「国風文化」と呼ばれる文化現象は、文学・美術・建築などの諸文化の総合体として捉えられなければならない性質のものである。しかし、実際には文学なら文学研究という各専門分野における研究に留まり、それぞれの専門分野を横断するような研究は、これまで余り進められてこなかった。こうした研究状況を踏まえて、庭園と和歌の相互的な関係性に注目して「国風文化」の形成に関する研究を行うことを計画した。

### 2. 研究の目的

本研究は、「国風文化」形成期における寝殿造庭園と和歌の相互関係の解明を目指したものである。和歌文学の隆盛の基盤となった初期の歌合の場において、州浜(ミニチュア)や寝殿造庭園がどのような機能を果たしたのかを具体的に分析することによって、10世紀前後の日本における「名所」の発生が和歌や庭園に大きな影響を与えたことを明らかにする。

更に、最終的には和歌や寝殿造庭園における「名所」の発生について、「国風文化」全体の中でその意義を検討する。和歌や寝殿造庭園において日本各地の「名所」が再現されることを通して、中国を中心とした東アジア文化圏で共有された「風景」の価値とは異なる、日本独自の「風景」が新たに「発見」されていく。そして、その日本独自の「名所の発生」及び「風景の発見」が、自国の文化価値の再認識を促すことにより、「国風文化」形成の一つの基盤が作られたことを明らかにすることを最終的な研究の目的とするものである。

### 3. 研究の方法

9世紀末から10世紀中葉までの初期歌合を主な対象として、『新編国歌大観』をテキストとして用いて「池」「州浜」「地名」という三つのカテゴリーでそれぞれの用例の収集と分析を行うとともに、併せて平安期の作庭書である『作庭記』の記述と照合して和歌と庭園の関連を調査する形で研究を進めた。

平成28年度は、「池」や「遣水」などの庭園用語を含む庭園関連の和歌を広く検索し、それらの和歌や和歌を含む歌合が、地名(歌枕・名所など)とどの程度の接点を持つのかについて基本的な調査を行った。

平成29年度は、前年度の調査結果を踏まえて、特に歌合に焦点を当て、歌合における「州浜」の用例と「地名」の関連性を分析した。その結果、歌合に用いられた「州浜」の多くは、日本各地の「名所」を再現したものであったことが明らかになった。これは、『作庭記』に見られる庭園の風情が「名所」を模倣することを旨とするという記述と一致するものであった。これにより、州浜も寝殿造庭園も「名所」を再現するという特徴を持ち、「名所」の再現によって喚起された風情が詠歌を促すという関係性が明らかになった。

平成30年度は、寝殿造庭園と和歌との密接な関係に見られた「名所」の発生意義を「国風文化」という視点から検討することで研究全体の総括を行った。

なお、本研究における調査によって蓄積された庭園関係の和歌のデータベース、及びフィールドワークによって収集した画像データを整理して、当初の計画通りにホームページを作成するために一年間の研究機関の延期を行い、令和元年度にホームページを完成させ、研究成果を広く一般に公開した。

### 4. 研究成果

(1) 本研究に関して各年度ごとにその成果をまとめ、以下の論文において発表した。

袴田光康「平安時代の庭園と和歌」(『考古学ジャーナル』 697号、35～36頁、2017年)

袴田光康「平安時代の庭園と歌合」(『考古学ジャーナル』 719号、32～33頁、2018年)

上記の論文「平安時代の庭園と和歌」は、和歌の中に「池」・「中島」・「遣水」・「立石」などの庭園意匠がどのように詠まれているのかを用例に基づいて論じたものであり、また「平安時代の庭園と歌合」は、特に歌合における州浜の用例に焦点を当てて、その州浜の機能が「名所」の再現によって詠歌と一体となって情緒を高める点にあることを論じたものである。

(2) 最終年度における研究全体の成果については以下の論文集において発表した。

袴田光康「古代庭園文化の受容と翻案 寝殿造庭園と「名所」の発生」(今野喜和人編『翻訳とアダプテーションの倫理』、春風社、2019年)

上記の論文「古代庭園文化の受容と翻案 寝殿造庭園と「名所」の発生」は、本研究の総括に位置づけられるものである。東アジア文化圏から導入された庭園が、寝殿造庭園の様式において

大きく変化した背景に日本各地の「名所」の発生というものがあるのではないかという問題提起から始まり、その「名所」の発生が日本における新たな「風景の発見」に繋がること、更に、そうした日本の独自性の自覚が「国風文化」の形成の一要因となることなどを論じた。

(3) 本研究の成果を広く一般に公開するため、当初3年間であった研究期間を一年間延長して、「古代庭園と和歌」(<http://heianteien.sakura.ne.jp/>)のホームページを作成した。飛鳥・奈良・平安・韓国などの庭園について、それぞれ写真と解説を掲載するとともに、研究期間内に調査した「池」・「中島」・「立石」・「州浜」・「庭」などの庭園関係和歌のデータベースを公開し、広く社会に向けて研究成果の発信を行った。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計16件（うち査読付論文 8件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 袴田光康	4. 巻 719号
2. 論文標題 平安時代の庭園と歌合	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『月刊考古学ジャーナル』	6. 最初と最後の頁 32-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 堂野前彰子	4. 巻 39
2. 論文標題 『遠野物語』と水神	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 リバティアカデミーブックレット	6. 最初と最後の頁 31-57
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 堂野前彰子	4. 巻 4号
2. 論文標題 大津皇子の庭	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『トルソー』	6. 最初と最後の頁 52-57
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 金孝珍	4. 巻 26号
2. 論文標題 『周生伝』に見える西湖世界	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 古代学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 12-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 袴田光康	4. 巻 697
2. 論文標題 平安時代の庭園と和歌	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 考古学ジャーナル	6. 最初と最後の頁 35-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 袴田光康	4. 巻 51号
2. 論文標題 日本の古代文学における「新羅」と「高麗」 その用例の文化史的考察	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本學研究	6. 最初と最後の頁 81-106
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 堂野前彰子	4. 巻 29輯
2. 論文標題 華嚴縁起に描かれた「鬼」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 淵民學志	6. 最初と最後の頁 141-177
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 堂野前彰子	4. 巻 12
2. 論文標題 若狭国の日向神話	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 美浜町歴史シンポジウム記録集	6. 最初と最後の頁 59-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金任仲	4. 巻 29輯
2. 論文標題 日本華嚴宗祖師の元暁	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 淵民學志	6. 最初と最後の頁 113-140
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 袴田光康	4. 巻 16号
2. 論文標題 須磨の祈りと天神信仰	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 物語研究	6. 最初と最後の頁 182-192
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 袴田光康	4. 巻 12号
2. 論文標題 徐福渡来伝承をめぐる断章 寛輔のこと	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 翻訳の文化/文化の翻訳	6. 最初と最後の頁 71-78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 堂野前彰子	4. 巻 26輯
2. 論文標題 『遺老説伝』に描かれた寺	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 淵民學志	6. 最初と最後の頁 83-109
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 堂野前彰子	4. 巻 11
2. 論文標題 古代日本文学から見た日本海交流 出雲神話を中心に	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 美浜町歴史シンポジウム記録集	6. 最初と最後の頁 35-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 堂野前彰子	4. 巻 34
2. 論文標題 「山男」の原風景 柳田國男と宮澤賢治	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 明治大学リバティアカデミーブックレット	6. 最初と最後の頁 38-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金孝珍	4. 巻 131
2. 論文標題 平安時代の婚姻形態－中国・韓国の正妻、次妻との比較を通して－	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 文芸研究	6. 最初と最後の頁 35-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 金任仲	4. 巻 7号
2. 論文標題 新羅僧審祥の来日について	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 東アジア文化研究所紀要	6. 最初と最後の頁 75-92
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 4件）

1. 発表者名 堂野前彰子
2. 発表標題 古代日本文学に描かれた相模国
3. 学会等名 横須賀まちおこし歴史・文化講座（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 堂野前彰子
2. 発表標題 華嚴縁起に描かれた「鬼」
3. 学会等名 韓国淵民學會（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 金任仲
2. 発表標題 日本華嚴宗祖師・元暁について
3. 学会等名 韓国淵民學會（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 袴田光康
2. 発表標題 日本古代文学における新羅・高麗・百済のイメージ 三国の用例とその文化史的考察
3. 学会等名 東國大學日本研究所第37回國際學術シンポジウム（国際学会）
4. 発表年 2016年



1. 発表者名 堂野前彰子
2. 発表標題 『遺老説伝』に描かれた「寺」
3. 学会等名 朝鮮文化交流600周年記念学術大会（主催：琉球大学IIOS・琉球アジア文化・琉大史学会、韓国洵上古典研究会、University of Geneva） （国際学会）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 堂野前彰子
2. 発表標題 古代日本文学から見た日本海交流 出雲神話を中心に
3. 学会等名 平成二十八年度美浜町歴史シンポジウム
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 袴田光康、今野喜和人、スティーブ・コルベイユ、安永愛、ローベル柊子、中村ともえ、大園正彦、花方寿行、田村充正、大原志麻、山内功一郎、南富鎮、桑島道夫、渡邊英理	4. 発行年 2019年
2. 出版社 春風社	5. 総ページ数 414
3. 書名 今野喜和人編『翻訳とアダプテーション』	

1. 著者名 堂野前彰子	4. 発行年 2017年
2. 出版社 三弥井書店	5. 総ページ数 460
3. 書名 古代日本神話と水上交流	

〔産業財産権〕

〔その他〕

ホームページ「古代庭園と和歌」(<http://heianteien.sakura.ne.jp/>)

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	堂野前 彰子(岡本章子)  (DOUNOMAE AKIKO)  (50588770)	明治大学・研究・知財戦略機構・研究推進員    (32682)	
研究分担者	金 孝珍  (KIM HYOUJIN)  (20638986)	明治大学・研究・知財戦略機構(駿河台)・研究推進員    (32682)	
研究分担者	金 任仲  (KIM INCHON)  (30599577)	明治大学・研究・知財戦略機構(駿河台)・研究推進員    (32682)	